# 学校閉鎖時のオンラインによる教育活動の実践と今後の可能性

前日本メキシコ学院・日本コース教諭
群馬県館林市立第二中学校教諭 山口　翔

キーワード：学校閉鎖、オンラインによる教育活動、ICT 活用

赴任校の概要（2021 年 8 月 1 日現在）
学校名・日本語：日本メキシコ学院・日本コース
学校名・現地表記：Liceo Mexicano Japonés, A.C.
URL：https://www.liceomexicanojapones.edu.mx/ previo/

## 1. はじめに

2020 年度、メキシコは新型コロナウィルス感染症の影響で、4 月から 3 月まで学校閉鎖となった。これにより、年間を通してオンラインで教育活動を行うこととなり、普段行っていた教育活動やメキシココースとの交流活動の実施が困難となった。そこで、オンラインによる教育活動と国際交流の実践結果から考えられる課題をまとめ、オンラインによる教育活動の今後の可能性をまとめていきたい。

## 2. オンラインにおける教育活動

(1) 学校で行った年間の活動（教科書等配布以外はオンラインでの実施）

| | |
|---|---|
| 3 月 27 日～ | 新年度用教科書等の配布（保護者来校による受け渡し） |
| 4 月 20 日～ | Google Meet を利用したオンライン授業の開始 |
| 7 月 31 日 | 保護者への「オンライン授業におけるアンケート」の実施 |
| 8 月 13 日～ | アンケートの結果を受けての時間割の再編成。 |
| 8 月 13 日 | 第 1 回　学級懇談会の実施 |
| 8 月 18 日～20 日 | 中学 3 年生進路面談 |
| 9 月 18 日～10 月 1 日 | 前期三者面談・教科書等配布 |
| 10 月 5 日 | 後期始業式 |
| 12 日 7 日～12 月 9 日 | 中学 3 年生進路面談 |
| 12 月 9 日 | 第 2 回　学級懇談会の実施 |
| 12 月 17 日 | 中学部仮卒業式の実施 |
| 12 月 18 日 | 冬休み前全校集会 |
| 1 月 6 日 | 冬休み明け全校集会・書初め大会 |
| 1 月 15 日 | 入学式の実施 |
| 1 月 22 日 | メキシココースとの文化祭の実施 |
| 2 月 15 日～17 日 | 後期三者面談 |
| 3 月 5 日 | 卒業証書授与式 |
| 3 月 12 日 | 修了式 |

(2) オンラインにおける教育活動と国際交流の実践

①オンライン授業について

オンラインで授業を始めるにあたり、どの教科を実施するかが１番の課題となった。4 月から夏休みまでは、技能教科以外の教科で授業 30 分・課題 30 分を 1 コマとして、オンライン授業を行った。（資料ｉ）その後、夏休み以降の学校閉鎖も決まり、保護者にアンケートを行った。その結果と児童生徒の様子、学習の評価を行う必要性から、8 月より全教科でオンライン授業を実施するために時間割の再編成を行った。また、10 月の後半からは委員会活動等の特別活動を行う時間として、放課後活動の時間を設定した。（資料ⅱ）

本校は Google のアカウント契約を学院で行っていたので、Google Meet を用いて授業を行った。当初は、教員も児童生徒も慣れない環境での授業で戸惑いが見られた。しかし、1 ヶ月程度で特に児童生徒がオンラインでの学習に慣れてきた様子が見られた。

授業の方法として、主に PowerPoint で教材を作成し、自宅からの授業だったため、学校側から支給されたホワイトボードを黒板代わりに授業を行った。私の担当教科は算数と数学だが、コンパス等の実際に操作を伴う単元については、学校再開後に行うように先送りにした。しかし、再開のめどが立たなかったため、書画カメラや黒板を利用して学習を行った。学習の定着を判断するために定期的に単元テスト等を行い、個々の状況を把握することができた。課題や単元テストの配布・提出については、Google Classroom を用いて行った。

授業進度としては、学校行事等がないため、年間指導計画よりも早く進む傾向が見られた。学習の評価については、単元テストの結果と単元ごとのまとめを提出させることで、各観点の評価を行った。

資料ｉ　年度当初の時間割

| | ① 8時00分 | ② 8時35分 | ③ 9時10分 | ④ 9時45分 | ⑤ 10時20分 | ⑥ 10時55分 | ⑦ 11時30分 | ⑧ 12時05分 | ⑨ 12時40分 | ⑩ 14時00分 | ⑪ 14時35分 | ⑫ 15時10分 | ⑬ 15時45分 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小１ | | 国語 | 課題 | | 図工 | 課題 | | 算数 | 課題 | | | | |
| 小２ | | 国語 | 課題 | | 算数 | 課題 | | 国語 | 課題 | | | | |
| 小３ | | 図工 | 課題 | | 算数 | 課題 | | 国語 | 課題 | | | | |
| 小４ | | | 国語 | 課題 | | 社会 | 課題 | | 算数 | 課題 | | | |
| 小５ | | | 国語 | 課題 | | 算数 | 課題 | | 理科 | 課題 | | | |
| 小６ | | | 国語 | 課題 | | 社会 | 課題 | | 算数 | 課題 | | | |
| 中1 | 社会 | 課題 | | 英語 | 課題 | | 理科 | 課題 | | 国語 | 課題 | 数学 | 課題 |
| 中2 | 数学 | 課題 | | 国語 | 課題 | | 英語 | 課題 | | 理科 | 課題 | 社会 | 課題 |
| 中3 | 英語 | 課題 | | 社会 | 課題 | | 国語 | 課題 | | 数学 | 課題 | 理科 | 課題 |
| ひまわり | | 国語 | 課題 | | 図工 | 課題 | | 算数 | | | | | |

資料ⅱ　放課後活動を設定した最終の時間割

| | ① 8時00分～8時45分(50) | ② 8時55分～9時40分 | ③ 9時50分～10時35分(40) | ④ 10時45分～11時30分 | ⑤ 11時40分～12時25分(30) | ⑥ 12時35分～13時20分 | ⑦ 13時30分～14時15分(20) | ⑧ 14時25分～15時10分 | ⑨ 15時20分～16時05分(10) | ⑩ 16時15分～16時45分 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小１ | 国語 | | 算数 | | 図工 | | 体育 | | | |
| 小２ | 国語 | | 算数 | | 西語 | | 体育 | | | |
| 小３ | 図工 | | 算数 | | 英語 | | 道徳 | | | |
| 小４ | | 西語 | | 社会 | | 音楽 | | 算数 | 15:20～15:50 放課後活動 | |
| 小５ | | 体育 | | 算数 | | 英語 | | 国語 | 15:20～15:50 放課後活動 | |
| 小６ | | 家庭科 | | 社会 | | 理科 | | 国語 | 15:20～15:50 放課後活動 | |
| 中1 | 社会 | | 理科 | | 英語 | | 数学 | | 国語 | |
| 中2 | 国語 | | 英語 | | 理科 | | 数学 | | 社会 | |
| 中3 | 理科 | | 国語 | | 社会 | | 英語 | | 数学 | |
| ひまわり | 国語 | | 算数 | | 図工 | | 体育 | | | |

②学校行事等について

| 学校行事等 | 行事等の内容 |
|---|---|
| 教科書等配布 | 教科書の配布は副教材と併せて、3 月末と 9 月末に行った。配布日は、三者面談と同日で午前授業とし、保護者に来校してもらった。 |
| 学級懇談会 | 長期休業前に年 2 回行った。内容は、児童生徒のオンライン学習の状況についての担任からの話と保護者の意見や児童生徒の家庭での様子についての情報交換を主とした。懇談会では、保護者から時間割や課題の量についての質問が多く出た。 |
| 三者面談 | 前期末（9 月）と後期末（3 月）に行った。内容は、学習の評価の方法や日本の学校での体験入学及び二重在籍の期間の確認などが主となった。 |
| 全校集会 | 後期開始日や長期休業の前後に行った。校長先生の話や各担当からの話を行った。 |
| 書初め大会 | 冬休み明け初日の授業で行った。お互いに画面越しに自分が書いたものを見せ合い、意見交換を行った。 |
| 文化祭 | 学院全体の行事として行った。各コースごとに事前に発表を録画し、決められた日の 2 時間で観賞を行った。 |
| 入学式 | 入学式については学校再開を待ったが、目処が立たなかったため 1 月にオンライン Zoom（Zoom Video Communications）で行った。個々の記念写真については、日にちを決めて来校してもらい撮影を行った。 |
| 卒業式 | 卒業式もオンライン（Zoom）での LIVE 配信で行った。式次第のうち、司会と祝辞以外は事前に録画をして行った。卒業証書の授与については、事前に来校してもらい、授与の様子を録画して編集を行った。当日は全校参加とし、卒業生が常に映るようにした。 |

③メキシココースとの交流について

| 交流名 | 交流の内容 |
|---|---|
| 音楽交流<br>（小 2） | メキシココースの小学 2 年生と 2 週に 1 回のペースで、音楽の授業を合同で行った。担当教諭はそれぞれのコースの教諭が交互に指導を行った。 |
| 絆交流<br>（中 3） | 日本コースの卒業式に向けて、メキシココースの中学 3 年生と交流授業を行った。内容は、学院での 3 年間の生活で学んだことや将来の夢などのテーマをもとに話し合い、それぞれの考えを共有した。また、卒業式ではメキシココースから送る言葉としてビデオメッセージをもらい、式の際に上映を行った。 |
| 不定期な交流<br>（全学年） | 小学部は学級での活動や授業において、メキシココースの児童とレクリエーションや意見交換等の活動を行った。中学部は生徒会活動や委員会活動をテーマにし、お互いのコースの違いについて話し合った。また、英語の授業を一緒に行うなどして交流を深めた。 |

## 3. 課題と改善策

(1) オンライン授業について

・各家庭のインターネット環境の違い。→各家庭でインターネットの環境を整えてもらった。

・PC やタブレットの準備→準備ができない場合には、学校から貸し出しを行った。

・兄弟関係を考慮した時間割の作成→インターネットや機器の数などの問題があり、できるだけ重ならない

ように配慮を行った。

・単元テスト等を行う際に、他の資料が見れてしまう。→評価材料の重みづけを変えた。

・個々の習熟度が分かりづらい。→ノート提出や小テストの回数を増やし、習熟度を把握しようとした。

・技能教科の活動の制限が多い。→例として、音楽の合唱や合奏などの複数の人数で合わせることについてはタイムラグが生じるので活動が難しかった。

・評価に妥当性を持たせるために、通常よりも客観的な資料が必要となる。

→観点によって見取りが難しいものがあり、より客観的な資料をもとに評価を行う必要があった。実際に通知表を出す際には「オンライン学習における評価」と明記を行った。

(2) 学校行事等について

・学校再開の時期が流動的だったため、行事をオンラインで行うことの判断が遅くなった。

→夏季休業明けからは、再開できないことを見込んで、オンラインでできる行事を行うように計画をして実施した。

・日本の学校への体験入学や二重在籍の児童生徒が多く、時間の関係で参加が難しいことが多くあった。

→時差を考慮し、金曜日の 16 時から行うなど、できるだけ多くの生徒が参加できるように配慮を行った。

(3) 国際交流について

・メキシココースの時程と日本コースの時程が違うことで、お互いの休憩時間や準備時間を確保するために時間割の調整を行う必要があった。

→交流の前の時間を学活として扱い、休憩時間や準備の時間を確保した。

・小学生低学年や中学年は、例年は体を動かす交流が多かったので、できる内容の制限が多かった。

→メキシココースの先生と打ち合わせを重ねて、オンラインでもできる交流を考えて実施した。

## 4. まとめ

オンライン授業を始めるにあたり、最大の課題はインターネット環境や機器の問題である。そのことから実施を躊躇する場面が多々あった。しかし、その課題をクリアできれば、同様な状況が起きた時に、子どもたちの教育活動の保障が可能であると確信することができた。児童生徒の適応力は予想に反して高く、現在では全学年で問題なくオンラインによる教育活動に参加することができている。そこで、年間を通してオンラインによる教育活動を行った経験から考えられる今後の可能性についてまとめたい。

1 つ目は、PC 等の技能の習得である。オンライン授業で使う技能は、今後子どもたちが社会に出る際に必要不可欠なものである。それを実際に授業で使う中で実践的な技能を自然に習得できることは、大きなメリットではないかと考える。

2 つ目は不登校等の児童生徒に対する教育活動の保障である。今までは不登校の児童生徒に対し、他の児童生徒と同様の教育活動を行うことはできなかった。全ての教育活動の保障は現実的に不可能だが、オンライン授業を行うことで、学習の保障と保護者の精神的な負担を減らすことは可能だと考える。「登校できるようになるのが目標」となる場合が多いが、登校を再開するためには、他の児童生徒と同じ学習が必要であると考える。デメリットとして、オンライン授業の環境に慣れてしまい、登校することの意味を見出せなくなる可能性があるが、「何もしない」より「何かする」を選ぶべきではないかと考える。不登校の理由は様々で、発達障害の影響で不登校になっている子どもはその後も登校できない可能性がある。その子どもたちの特性を把握し、今後さらにデジタル化が進む社会で生きるための力を高める可能性がオンライン授業にはあると考える。

最後に、1 年間オンラインによる教育活動を行い、学校に登校することの大切さを実感し、教育活動の保障

がいかに大切なことかを考えることができた。そのためにも、すぐに実行できる環境を整えておくことが必要だと思う。また、オンライン授業を通して身に付ける力は、今後の社会を生き抜くために必要な力である。その力を身に付けさせるために、今後もオンラインによる教育活動の可能性について考え、実践をしていきたい。